

Twin college envoys program (TWINCLE) 千葉大学

大学の世界展開力強化事業
ASEAN対象プログラム
平成24年度採択



実施した交流プログラムの概要 ～文理融合教育とグローバル人材養成～

科学・技術文化を通じてASEANの若者に日本を伝える

368名の学生が
ASEAN訪問



ASEAN大学
留学生受入

協働

異文化理解

授業開発

海外派遣

グローバル
対応力

ASEAN諸国
高校での
科学授業



アクティブ・
ラーニング

先端科学に基づく
教材開発

プレゼン能力養成
いつでも・どこでも
伝える力



文理融合教育

教育系 96名/年 理系

48名

教育学の知見
+科学トピック

48名

工学、理学
園芸学、
看護学等

グローバルジャパンカリキュラム(最大10単位)

- ・授業研究
- ・外国語特別研究
- ・アウトリーチ活動 等

2ターム

1ターム (長期休暇)

ASEAN留学生による日本でのツインクル活動

246名を受入

ASEAN
大学生

千葉県下の
学校訪問

MIS
附属幼小中
連携高校



協働

千葉大学生

児童・生徒

- ・科学活動支援
- ・グローバル教育
- ・科学文化交流

ASEAN連携大学

千葉大学
CHIBA UNIVERSITY

グローバル人材養成立強化



実績

		H24	H25	H26	H27	H28
派遣学生数	3か月未満	39	76	82	90	79
	3か月以上	0	0	0	0	0
受入学生数	3か月未満	0	83	67	59	36
	3か月以上	0	0	0	0	0

(H28年12月15日現在。予定数含む。)



実績

派遣368名、受入れ246名

合計14,000人のASEANの生徒が授業を受講

学生派遣/受入人数および現地学校での授業実施状況

		平成24年度		平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度		
学生派遣先	連携大学	授業実施中・高等学校	派遣人数	授業実施中・高等学校	派遣人数	受入人数	授業実施中・高等学校	派遣人数	受入人数	授業実施中・高等学校	派遣人数	受入人数	授業実施中・高等学校	派遣人数	受入人数
インドネシア	インドネシア大学	2校、計 8講義	8名	3校、計 20講義	15名	13名	2校、計 24講義	10名	6名	2校、計 8講義	10名	5名	2校、計 8講義	6名	3名
	ガジャマダ大学	2校、計 8講義	8名	2校、計 8講義	14名	10名	2校、計 8講義	8名	8名	2校、計 12講義	14名	7名	2校、計 12講義 予定	11名	3名
	ボゴール農業大学	2校、計 8講義	8名	2校、計 8講義	6名	8名	2校、計 8講義	6名	7名	2校、計 8講義	9名	5名	2校、計 8講義 予定	7名	4名
	バンドン工科大学	4校、計 12講義	4名	2校、計 10講義	8名	12名	2校、計 8講義	8名	7名	2校、計 8講義	8名	5名	1校、計 4講義	5名	4名
	ウダヤナ大学	2校、計 12講義	9名	2校、計 20講義	21名	5名	2校、計 8講義	8名	10名	政情不安のため プログラム変更		5名	2校、計 8講義 予定	6名	2名
カンボ	王立ブノンベン大学	1校、計 4講義	2名	1校、計 4講義	2名		1校、計 4講義	2名		1校、計 4講義	4名	5名	1校、計 4講義	4名	3名
ボスニア	南陽理工科大学			1校、計 4講義	4名		1校、計 4講義	4名		2校、計 4講義	4名		2校、計 4講義 予定	4名	
タイ	カセサート大学			政情不安のため 中止			1校、計 4講義	4名		政情不安のため プログラム変更	3名	4名	2校、計 4講義	10名	4名
	マヒドン大学						2校、計 4講義	4名	6名	政情不安のため 中止		5名	2校、計 4講義	5名	3名
	チュラロンコン大学					10名	1校、計 12講義	9名	7名	政情不安のため プログラム変更	13名	6名	1校、計 4講義	6名	4名
	キングモンクット工科大学 トンブリ校					15名	2校、計 6講義	13名	10名		11名	7名	2校、計 4講義	6名	3名
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校			2校、計 4講義	6名	11名	2校、計 8講義	8名	6名	3校、計 12講義	14名	5名	3校、計 12講義 予定	9名	3名
合 計		13校 計 48講義	39名	15校 計 78講義	76名	84名	13校 計 48講義	84名	67名	14校 計 56講義	90名	59名	22校 計 76講義	79名	36名

※平成26年度よりロングコース受入れを開始したため受入れ人数は減少したが、人月は毎年すべて消化



質の保証を伴った交流枠組み（相互単位認定、共同学位プログラム等）の形成

・グローバルジャパンカリキュラム

千葉大学の学生及びASEAN留学生の双方が受講。単位取得可能。

・「トライアル」「ショート」「ロング」

単位相互認定に向けた多様なプログラム

・ジョイントスーパービジョン

本学及び受入先大学の双方向からの学生支援・指導・評価。

→新しい仕組みの立ち上げ「ショートコース」科学実験学習コース

乗り越えなければならなかった課題

- ・授業期間のずれ
- ・単位の考え方（授業時間、内容^{*}）

^{*} TWINCLEは全学レベルでの文系、理系をあわせた学部横断型交流であるため
専門分野間での学習内容の差が大きく、
連携大学全体の合意形成が困難であった



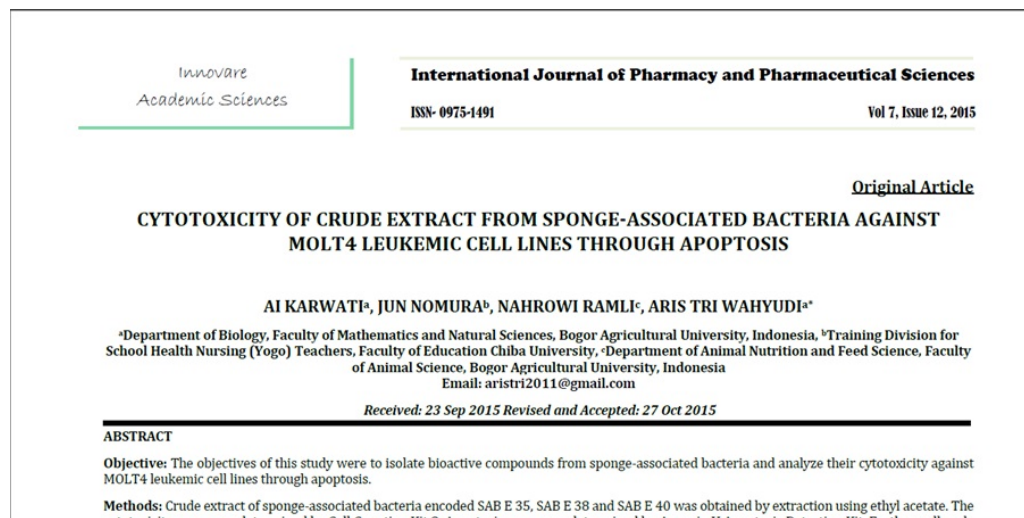
質の保証を伴った交流枠組み（相互単位認定、共同学位プログラム等）の形成

「トライアル」 ➡ グローバルジャパンカリキュラムでの認定

「ショート」 ➡ 千葉大学認定単位の相互認定

「ロング」 ➡ 修士課程でのジョイントスーパービジョン、学位取得

➡ 修士論文を基にした国際誌投稿および掲載





プログラム参加後の学生のフォローアップ・出口対策

体制

- ・学務に関する専門職員（アマヌエンス）の配置と学生への総合的サポートの実施

SNS（Facebook、Line等）を活用した 学生交流・情報交換

- ・友好関係を維持
- ・ツインクルOB・OGとこれからの参加学生をつなぐコミュニティー

成果報告会の開催

- ・連携大学および高校教員を交えた成果報告会による活動の振り返りと強化



千葉大学
CHIBA UNIVERSITY

プログラム参加後の学生のフォローアップ・出口対策



修了報告会

→派遣学生によるポスターセッション



情報の発信・成果の普及

<http://www.twinkle.jp/>

活動報告書 (2012～2016)



参加者インタビュー動画集





情報の発信・成果の普及

論文および学会等発表

- ・ 科学教育研究 (in press 1報, 投稿中1報)
- ・ 千葉大学教育学部研究紀要 (5報)
- ・ 東アジア科学教育学会「EASE」(2015, 2016)
- ・ 日本科学教育学会(2014, 2015, 2016)
- ・ グローバル人材養成シンポジウム2013
- ・ 静電気学会(招待講演)2013
- ・ 中央大学シンポジウム2015
- ・ 海外で学ぶ人／働く人の安全・健康支援講演会2016

メディア発表

日経新聞、サンデー毎日、読賣新聞、AERA(朝日新聞出版)、
文教ニュース

インドネシア デンパサル新聞

国際シンポジウム開催

2014, 2015, 2016



Dosen Jepang Mengajar di Trisma Puji Kreativitas Siswa SMAN 3 Denpasar

SMAN 3 Denpasar (Trisma) untuk kali pertama mendapat dosen dan mahasiswa tamu dari Jepang. Dia adalah Ryugo Oshima dan Saotoko Baba, asisten profesor dari Chiba University, Prov. Chiba, Jepang.

Selama di Trisma, keduanya mengajak delapan mahasiswa S-1 dan S-2 Chiba untuk dilibatkan dalam kegiatan Twinkle Program (Twinkle College Envoy Program) atau program duta kerja sama dua universitas. Mereka sejak 31 Januari lalu belajar dan mengajar di sejumlah kelas di Trisma.

Selama seminggu mereka sharing budaya dan mengajar di kelas X dan XI dengan pengantar bahasa Inggris dan Jepang. Program ini direpons positif oleh siswa Trisma yang diajarkan oleh asisten profesor dan mahasiswa Jepang ini.

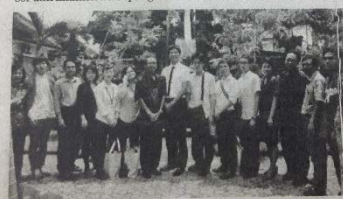
Di kelas, mereka mengajar sains dan kebudayaan Jepang. Karena misi mereka ke Bali juga untuk menyebarkan budaya dan tradisi Jepang.

Ryugo Oshima mengungkapkan, siswa Trisma ternyata selain pintar berbahasa Inggris juga pintar berbahasa Jepang. Siswa Trisma bahkan saat ini menggunakan bahasa Inggris dalam berkomunikasi, sedangkan siswa SMA di Jepang mereka masih malu menggunakan bahasa Inggris sebagai alat komunikasi. Menurut Ryugo Oshima, hasil metode mengajar ini, akan dialisis dan diseminarkan. Bagi Jepang, kata dia, pengalaman ini akan dijadikan masukan untuk go international di era global. Diharapkan siswa Jepang meniru siswa Trisma yang aktif berbahasa Inggris dan kuat budayanya Balingya.

Selama berada di Trisma, Ryugo Oshima dan kawan-kawan mengakui Trisma sudah menuju go international. Tinggal mengembangkan diri untuk menjalin kerja sama sister school. Bahkan siswa Trisma dikatakan sangat aktif di kelas dibandingkan siswa di Jepang. Di Jepang umumnya diam, namun anak-anak Trisma sangat aktif bertanya. Di samping itu, pertanyaannya tajam dan kritis, dengan ide cemerlang.

Ryugo Oshima mengatakan program ini dipayungi kerja sama Chiba dengan Unud. Trisma dipercaya Unud untuk menjalankan kerja sama ini berupa pertukaran PBM dan kebudayaan.

Kepala SMAN 3 Denpasar Drs. Ketut Suyatara, M.Pd, mengungkapkan kerja sama ini akan dilanjutkan dengan kerja sama sister school dengan Jepang. Ia pun berterima kasih pada Unud yang mempercayakan Trisma sebagai aplikasi programnya sebagai duta Indonesia untuk menjaga citra pendidikan nasional. Bahkan Unud akan mengajak guru Trisma ke Chiba 14-19 Maret mendatang sebagai tindak lanjut dari program ini. Bagi Trisma, kata Ketut Suyatara, kedatangan dosen tamu ini memberi dampak ganda bagi siswa dan lembaga. Siswa bisa berkomunikasi dan berlatih dengan PBM berbahasa dengan native speakers, bagi lembaga makin meningkatnya iklim akademis. (ad4)



BERSAMA - Kasih Ketut Suyatara bersama dosen dan mahasiswa dari Chiba University, Jepang berfoto di depan sekolah.



今後の展開

プログラム対象地域の拡大（MOU, MOAの締結）

- ASEANでの拡大
フィリピン、ラオス等
- ASEANからの拡大
台湾

プログラム内容の拡大

- 現職教員向けプログラムの開発（日本で、ASEANで）
- サマープログラム開発（ショートコース発展形）

資金獲得

- 自己資金（SEED基金等学内資金の獲得）
- 他プログラムとの連携（さくらサイエンスプラン等との連携）

千葉大学の目指すもの

- ＞教育研究を中心とした共同研究活動の拡大
- ＞今後の研究活動の拠点となる

アジア・アセアン教育研究センター設立へ準備

千葉大学が主導する理系グローバル人材の養给力強化

小中高校生への取り組み

教員への取り組み

